

■ 令和5年度 第2回 東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

日 時：令和6年3月22日（水）午後2時から

会 場：東区プラザ 多目的ルーム1

（司 会）

お疲れさまです。定刻には少し早いのですが、皆さまお揃いですので、始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

なお、東中野山小学校区コミュニティ協議会の会長であります野村委員が今、下のほうで会議をしております、少し遅れるということで連絡を受けておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、ただいまから令和5年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を開会いたします。

本日はご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

司会を務めます、東区健康福祉課課長補佐の岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、後日、会議録を公開するため、録音させていただきます。あらかじめご了解をお願いいたします。

続いて、会議資料の確認をお願いいたします。先般、郵送でお送りさせていただいた資料を、本日、お持ちでしょうか。

それでは、順に確認いたします。はじめに、次第。続いて、資料1「令和6年度東区健康福祉課 主な事業(案)」です。続いて、資料2「令和6年度東区社会福祉協議会 主な事業(案)」です。続いて、資料3「地域福祉活動計画 地区別計画の取組状況」です。続いて、委員名簿と座席表です。

ここで、お詫びです。委員名簿につきまして、桃山校区コミュニティ協議会の小湊繁委員の漢字表記に誤りがありました。修正版を机上にて配布しております。大変申し訳ありませんが、差し替えをお願いいたします。小湊委員、申し訳ありませんでした。

続きまして、冊子「東区地域ふれあいプラン」はお持ちでしょうか。

以上、資料ですけれども、お持ちでない方がいらっしゃいましたらお知らせください。今、お届けします。

皆さま、資料は行き渡りましたでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第1、開会あいさつ。東区健康福祉課

星野課長から、開会に当たりごあいさつを申し上げます。

(健康福祉課長)

皆様こんにちは。東区健康福祉課長の星野です。

本日は多忙の中、令和5年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろより私どもの業務につきましてご協力、ご理解いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、昨年7月の第1回推進委員会においてご出席いただいた皆様、さまざまなご意見、ご質問、ありがとうございました。おかげさまで実りある委員会にすることができたと、事務局一同感じているところです。

今回の第2回推進委員会では、地区別の取組状況を推進委員の皆さまからお話しいただけるということで、ほかの地区の状況を知ることができるこれ以上ない機会だと思います。今回のお話をそれぞれ地区に持ち帰っていただき、今後の取組みに生かしていただければ幸いです。

最後に、さきの1月1日に発生しました能登半島沖の地震は新潟市にも大きな被害をもたらしました。今回の地震で、より一層地域のつながりの大切さを実感した方も多いのではないのでしょうか。今回のような自然災害のみならず、さまざまな状況を考慮しながら、引き続き皆さまと東区の地域福祉の推進に努めていく必要があると感じているところです。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

続きまして、東区社会福祉協議会からごあいさつ申し上げます。

(社会福祉協議会：帯川)

東区社会福祉協議会事務局長補佐の帯川です。本日は、事務局長の川上が所用のため欠席となりまして、私が代わりに皆様へのごあいさつを代読させていただきます。よろしくお願いいたします。

では、失礼いたします。皆様、日ごろより福祉施策に関するご協力を賜り、改めて深謝申し上げます。このたびは、地域の皆様と区及び社会福祉協議会が協働する地域福祉計画・活動計画推進のための会議に、ご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日は、地域の福祉や社会の課題について議論し、よりよい地域社会の実現に向け、皆様の貴重なご意見やご協力をいただくべく、地域の課題やニーズについて深く掘り下げ、改善策を模索してまいりる貴重な会議です。地域の皆様の声を反映した計画と実践内容を策定するため、積極的な意見交換を賜れば幸甚です。また、地域福祉にかかわるさまざまな方々が集まる場でもありますので、相互の情報交換や連携強化の機会としてもご活用いただければと思います。

末筆ながら、この重要な席に同席ができませんことを改めてお詫びしますとともに、当年

度、私ども社会福祉協議会としては必ずしも精力的な実践と成果に至らない部分がございますが、今後とも地域福祉の推進により一層貢献していくため、皆様から変わらぬご協力を改めてお願い申し上げますとともに、社協としてもう一度地域に入り直し、地域の皆様とともに汗をかいてまいる所存です。引き続きご支援、ご鞭撻のほど、どうかよろしくようお願い申し上げます。

令和6年3月22日。東区社会福祉協議会事務局長、川上修司。以上です。

(司 会)

それでは、次第2、議事に入ります。委員会の進行につきましては、東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会開催要項第4条第2項により委員長が行うこととなっておりますので、会議の進行を小池委員長からお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

(小池委員長)

皆様、こんにちは。

今日の朝、犬の散歩をしていたら雪がうっすらと積もっていたのですが、今はとても天気がよくて、本当に気候の差が激しくて、私もそうなのですが、体調管理も皆さんも大変なのではないかと。そのような中でこれだけの皆さんと一緒に会議、本当に欠席なしで持てたことを本当に素晴らしいことだなと思いつつ、今日、ここに座っております。皆様、どうぞ忌憚のないご意見、積極的なご発言をいただきながら、より充実した内容にしていきたいと思っておりますので、ご協力、お力添えをよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。議事の1点目、令和6年度東区健康福祉課及び東区社会福祉協議会の事業内容につきまして、まず、事務局である東区健康福祉課から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料1「令和6年度東区健康福祉課 主な事業(案)」をご確認ください。こちらに掲載してある事業は、特色ある区づくり事業という名称で実施していましたが、来年度から全事業別の予算枠として取り組むこととなりました。事業内容については変わらず実施予定です。

まず、一つ目、子育て応援事業です。こちらは妊娠期から父母双方に子育てに関する知識を得てもらい、知らないことによる虐待リスクを減らし、出産後の不安感や孤立感を解消するため、妊婦とそのパートナーを対象に、助産師と連携してプレママ・パパセミナーなどの育児支援講座を開催します。また、父親向けに休日開催の講座を実施し、父親の育児参加を促進します。

東区は新規の虐待対応件数が8区の中で多い傾向にあることから、これらの取組みを継続的に実施していく必要があると考えています。

続いて、二つ目、東区2km子育てトライアングル魅力発信です。主要子育て支援施設以外、こども創作活動館、わいわいひろばが2キロの距離で結ばれていることから、東区2km子育てトライアングルをキャッチフレーズに、東区こども文化祭を開催するなど、3施設の効果的な情報・魅力を発信し、子育てにやさしい東区を啓発します。こちらは令和5年9月に東区役所を会場に開催した、秋だ・あそぼうこどもまつりでは、二日間で延べ1,000人の来場がありました。

続いて三つ目、思春期の心と体の健康教育です。東区では、児童虐待や特定妊婦の割合が8区の中でも高い状況にあるため、引き続き中学校、高校、特別支援学校で助産師等の専門職による性教育や、相手を思いやる気持ち、命の大切さを学ぶ思春期健康教育を行います。

続いて、四つ目の高齢者見守り訪問・介護予防事業です。こちらは高齢者の生活支援への取り組みとして、東区内の75歳以上で介護認定などを受けていない高齢者の内、単身世帯及び高齢者のみ世帯の方を対象に、民生委員の皆様からのご協力のもと見守り訪問を実施し、生活のようすを確認するとともに、状況に応じて必要なサービスにつながるよう支援します。核家族化や生活の多様化などに伴い、地域でのつながりが希薄化する中、健康面、経済面などの事情により健全な生活を送ることが困難な高齢者や孤独死のおそれがある高齢者が問題となっています。このような方々が本来の生活を送れるよう、民生委員の皆様や地域包括支援センターのご協力のもと、高齢者のみ世帯を訪問していただき、生活のようすに応じて介護保険などの必要なサービスにつなげるなどの支援をするとともに、継続して見守りを行うものです。また、健康寿命の延伸を目的に、コミュニティ協議会と協働して、生活習慣病の予防や介護予防の講座などを実施し、健康づくりの支援を行います。こちらは毎年好評の事業となっております。令和6年度も新規実施や自主活動に向け支援します。大形地区コミュニティ協議会、東中野山小学校区コミュニティ協議会で実施予定です。

最後、五つ目のむし歯予防事業です。こちらは、子どものむし歯の改善に向け、子ども食堂、保育園、幼稚園、放課後児童クラブ等と連携し、子どものむし歯予防を啓発するとともに、健康相談やむし歯予防教室の実施など、歯と食育の健康づくりを行います。

以上で、令和6年度東区健康福祉課所管の事業案について、説明を終わります。

(小池委員長)

ありがとうございます。

続きまして、東区社会福祉協議会から説明をお願いいたします。

(社会福祉協議会)

資料の2番、令和6年度東区社会福祉協議会主な事業(案)をご覧ください。

説明させていただきます。令和6年度、私ども東区社会福祉協議会は重点事業として2事業、

拡充事業として1事業をあげております。それぞれ説明させていただきます。

まず、重点事業の一つ目、地域包括ケア推進事業（1層）です。これは、支え合いの仕組みづくり推進員、区域全域を担当する第1層推進員を配置しておりまして、区域における地域ニーズ、既存の地域資源の把握、生活支援等サービスの担い手養成に係る企画や意識醸成を図る場づくり等をとおして、地域の支え合いのしくみづくりをより推進していくものです。東区につきましては、ほかの7区と違いましてコミュニティ協議会が2層の推進員を受託されていることから、より細やかに地域の実情に即した施策を展開できる状況です。そういった細かな状況に即した相談支援を、私ども1層の推進員、配置して進めていきたいと思っております。

それでは、2点目です。コミュニティソーシャルワーク推進事業です。こちらは、コミュニティソーシャルワーカー、CSWと呼ばれる職員を配置しておりまして、個別支援にとどまらず、さまざまな生活課題を抱える住民の方、そのご家族が地域のコミュニティから孤立しないよう、一人一人の困りごとを地域の課題としてとらえ、住民同士が主体的に支え合う地域づくりを推進するものです。それに当たりましては、地域住民の皆様との連携協働のみならず、専門職の皆様、関係機関の皆様との連携が非常に重要になっております。そのどちらの強みも生かすような形で課題の解決に努めますとともに、解決につながる仕組みとして機能できる、そういったような包括的な支援体制の構築に進んでいきたいというものです。

続きまして、一番下、拡充事業をご覧ください。子育て支援事業です。子育て中の親子が地域で孤立しないよう、安心して行ける子ども食堂、また子育てサロンといった居場所の運営の立ち上げの支援を行うとともに、心配な子どもやご家庭につながるの構築支援ですとか、子ども食堂を運営される皆さんのネットワーク会議を効果的に開催する等、子ども食堂など居場所の助成を行うことで、地域を見守り育む地域づくりを進めてまいります。また、地域住民の皆様に対しましては、地域で子どもを見守り育む地域づくりを進めていくために、講演会などの意識啓発の事業も併せて実施してまいります。

いずれの事業につきましても、従来からの継続事業ですけれども、私ども東区社会福祉協議会の事業の大きな柱としてとらえて展開してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

（小池委員長）

ありがとうございました。

ただいまの説明に対しまして、ご質問やご意見、お気づきの点等がありますか。区の健康福祉課と社会福祉協議会でそれぞれ今まで展開されてきたものを見ながら、さらにプラスでやっていくというところもあるかと思いますが、ご質問等ありませんか。皆さんのそれぞれの地域でも、多分、取り組んでおられたり、かかわりのある事業等も入っているかと思えます。何かよろしいですか。

健康福祉課も5事業継続ということで展開されていますけれども、私はいつも聞かせていただくと、どの事業も非常に大事だと思うのですが、4番目の高齢者の見守り訪問介護予防事業というのが、本当に地域の民生委員たちのご協力なくしてはできない事業だろうというところで、訪問していただくアウトリーチ型の支援を丁寧にやったださっているということは非常に意義のある事業だと思いつながら見させていただいております。それで、実際に訪問されるといろいろなニーズが見えてきて、そこで要支援とか要介護のところにつながる方々も、ご本人たちが主体では、なかなか申し出なかつたり気づかなかつたりということをして民生委員が言っていただくことで、少し客観的に見ることができ、そういう支援につながっているという方々が、支援が届いているというような一つの仕組みとしてアウトリーチの大事な仕組みだと思つて見させていただいております。

よろしいでしょうか。感想などでもいいのですけれども、どうでしょうか。

(小湊委員)

桃山地区を担当しています、小湊といいます。

健康福祉課で継続で5点ばかりあるのですが、急にとはいりませんが、この中で、要するに、こういうボランティア的なことをやる人々を育てるものという仕組み、あるいは育てる方法というものを事業として新たに何とかお願いできないかと。

というのは、正直な話、世の中がいろいろな意味で、ある程度、今までと違って高齢者になつても仕事をしないといけなかつたりかそういう状況ですので、今までよりもこういうボランティアをする人が少なくなつてきているということも事実です。そういうことを考えたら、3番目までは中学高校とかの子どもたちを相手にできるのだけれども、その後、何とかそういう人たちが、時間はかかると思いますが、数年とか数十年かけて、その人たちが60近くなつたらこういうボランティアをやる、そういうことができるような教育もしてほしいなど。そういうものを事業化してほしいと思つています。

(小池委員長)

貴重なご意見、ありがとうございます。

事務局から何かご意見はありませんか。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございます。なかなか、欧米とかに比べると日本のボランティアという意識づけはなかなかこれまであまりされてきていないのかなというように感じているところです。ボランティアに係る自治会でも、区政懇、回りますと、担い手がいないとかそういう話もかなりお聞きするところです。今、委員おっしゃつたように、やはり、日常的にそういうものにかかわっていくことの大切さというもの、学校教育だけではなくて、その後も、や

はり、社会全体がそういう意識づけをしていかないと、今、ボランティアだけの問題ではなくて、いろいろな地域社会でのいろいろな活動のかかわり方が大きな課題になっているところですよ。

やはり、担い手不足というものが非常にうたわれて、なかなか抜本的な解決策はないのでしようけれども、地道に、また社会福祉協議会もボランティア活動の支援をされているところですので、またそういったところも含めて、区だけの問題ではないかもしれませんが、新潟市全体で、今回、災害もありましたので、ボランティアの役割というのは非常に重要だというのは再認識されていると思いますので、貴重なご意見として承りたいと思います。

(社会福祉協議会)

今、事務局からお話があったと思うのですがけれども、確かに、小湊委員おっしゃるように、ボランティアの担い手不足というのは、私もお聞きしている限り、すべての地域で課題に直面しているところがあるかと思います。若い世代をどうやって取り込んでいくか、今も70代くらいまでお仕事をされている方もたくさんいらっしゃいますし、定年後とか、あとはお仕事をしながらでもボランティア活動に協力していただけるように、うちのほうでもこれから持続可能な地域づくりといったところでボランティアをどう取り込んでいくかということ、仕組みをなかなか整備するのがすぐには難しいかもしれないですが、また皆さんのお力もお借りしながら、そのボランティアの育成にも、事業とかそういったところでも取り組んでいければと思います。

(小池委員長)

ありがとうございました。一緒に担ってくださる方々をどう皆さんと一緒につながるというか、つなげる場をどう作っていくかというのは、どの事業においても本当に大事なところになってくると思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

(渡辺(順)委員)

全く話は違うのですが、民生委員としまして友愛訪問を高齢者に、最近、高齢者が本当になくなってきて、40軒伺っているのですが、ただ、一人暮らしの人が冬場、短期の施設に行くのです。では、戻ってきますかと言うと、はいと言うのですが、戻ってこなくなるのです。そうすると、空き家になるのです。そういうところはどのようにしたらいいのかなと、ふと思っております。本当に最近、高齢者は本当に増えてきておりまして、病気持ちもいるのです。そうすると、訪問しますと、がんになったのだと言って、近いうちに入院するのですという話を、詳細をみんな話してくださるのです。だから本当に一人暮らしでかわいそうだなと、ふと本当に思っております。体調がよくなないと、やはり、お医者さんに行ったほうがいいと言ったほうがいいのでしょうか。

本当に高齢者、かわいそうになってきております。私のほうでは勝手にこのような物をつくりまして、必ず上げるのです。特殊詐欺には気をつけてねとか、こういうものを書きましてお渡ししているのです。そのようなところですよ。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございます。実際に見守り訪問をしていただきながらのお気づきの点をご紹介いただいたかと思えます。何か事務局からコメントはありませんか。ご質問と言ったらいいのでしょうか、といったところもあるかと思えますが。

(事務局)

ありがとうございます。空き家の問題は、今回の災害でも多分、いろいろあったのではないかと感じているところです。ただ、やはり、権利問題とかいろいろな課題があるのだらうと思えますので、昨年度もフォーラムでテーマにさせていただいた中で、向こう三軒両隣というお話を講師の方からさせていただいたと思うのですが、日ごろから、やはり、そういう状況になったときに、地域の方がどこに連絡すればいいのかということすら分からないとどうしようもないというような状況が、多分、生まれているのではないかと。

実は、私の町内でもそういうものがあって、やはり、連絡先が分からないというのが一番困っています。例えば、息子さんが県外に行っているとか、どこか離れていると状況が分からないと。例えば、ブロック塀がずれていたりしたとしても、だれに連絡すればいいのかというところが町内でも困っているという声を聞いております。したがって、やはり、そういう連絡先を、私ども行政というよりも、地域の皆さんが日ごろから確認していただくとありがたいと思っております。そうすると、何らかの糸口が見えてくる。やはり、先ほど言った家屋の空き家というのは権利問題がどうしても発生してきますので、そういったところでのファーストコンタクトといえますか、そういったところが大事なのかなと思っておりますので、ぜひ、その辺もまた皆さんで情報共有していただければと思います。

(小池委員長)

社会福祉協議会から何かありますか。

(社会福祉協議会)

社会福祉協議会からですと、渡辺（順）委員におかれましては友愛訪問の毎月の訪問活動にご協力くださりまして、誠にありがとうございます。

今ほどおっしゃったように、お会いする方、直接お顔を合わせる仲を通して、体調の優れないときに、お一人暮らしというのはとても心細い方だと思っております。そういうときにお声がけくださったり、例えば、地域包括支援センターをご紹介したりかかりつけの医師にかかったらという優しいお声がけがあるだけでも、そういった気持ちが少し和らぐと思えます。これから

もぜひ、継続でご協力いただければ幸いです。

一人暮らしで、注意事項をいろいろ伝えていただいているところなども、私ども、東警察署の皆さんともやり取りがある中で直接お伝えする機会がある皆様のご協力は非常にありがたいというお話をお聞きしております。先ほど、担い手のお話もありましたけれども、友愛訪問の活動もこういった形で担ってくださっている方あってのものになりますので、これからもぜひ、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございます。気になった方がおられたら、ぜひ、区の担当課か社会福祉協議会にもつないでいただけるといいのかなと思いながら聞いておりました。

(白井委員)

私は中野山小学校区コミュニティ協議会の白井と申します。

令和5年度からこの担当になって、全然分からないのですけれども、まず、令和6年度の東区健康福祉課の主な事業案が出ていますけれども、これは令和5年度も同じ案だったのですか。

(事務局)

そのとおりです。

(白井委員)

その報告はいつごろされるのですか。

(事務局)

すみません、この場で事業報告はしていません。

(白井委員)

しないのですか。それで、この事業は健康福祉課の方々がやられる事業なのですか。

(事務局)

そのとおりです。この事業だけが計画ではなくて、参考までに、市全体にはいろいろな事業があるのですけれども、健康福祉課で行っている事業ということでご紹介していることになります。福祉計画全体としてはこの事業だけではなくて。

(白井委員)

いろいろあるのでしょうかけれども、では、これは健康福祉課の方々がやる事業で、例えば、コミュニティ協議会に委託するとかどこかに委託するとかということはされていないわけですか。

(事務局)

この事業に関しましては、コミュニティ協議会の皆様をお願いしている事業はないです。例えば、私どもではなくて福祉部とか、本庁にある課が委託するという事業もあるかと思えます

けれども、これはあくまでも東区の健康福祉課の予算として行っている事業になります。

(白井委員)

それをここで発表する必要があるのですか。

(小池委員長)

来年度、地域福祉計画や地域福祉活動計画にかかわる事業を中心に今、ご報告いただいているという形になります。なので、皆さんが直接というところも、もしかしたら接点がある事業もあると思いますが、地域の中でこういう事業に取り組んでいますということ、まず、知っていただくということが一番の目的になります。それで、来年度の会議のときに今年度の総括というか、それぞれの事業はこういう形でやりましたということが、多分、報告されるのではないかと、例年そうかと思しますので、そのような形になります。

(白井委員)

あと、資料2の東区社会福祉協議会の、出ていますけれども、これは社会福祉協議会でやられる事業なのですか。それともどこかに委託というか、されるのでしょうか。

(社会福祉協議会)

ご質問、ありがとうございます。今ほどありましたこちらの主な事業で上げたものについては、ほかの方に委託されるものなのだろうかというご質問でした。こちらにつきましては、私どもが職員を配置して行っているものではあるのですが、私ども社会福祉協議会の事業は、特に、地域の皆様の、もしくは関係機関の皆様、ともにやらせていただく事業ばかりと思っております。ですので、私どもの事業としてももちろん行っていますし、企画するものもありますが、日々の支援の活動ですとかご相談の対応ですとか、そういったもろもろを含めては社会福祉協議会単独ですべて行うものではないと思っております。

(白井委員)

重点事業1の地域包括ケア推進事業の中に、コミュニティ協議会が2層推進員を委託することとあるのですが、要するに、コミュニティ協議会にもこういうものを作ってほしいかというご要望は出すのですか。

(社会福祉協議会)

今ほどのところにつきましては、支え合いの仕組みづくり推進員の1層と2層それぞれ担当している広さですとか担っているものが若干異なっている部分があります。私ども1層としてお受けしている1層推進員といいますのは、区全体の支え合いの仕組みづくりをどう推進していくかという部分になるのですが、コミュニティ協議会の皆様がお受けになっている2層というものになりますと、より生活の權益の中でどう支え合いを地域の中ではたを振って推進していくかという部分になってまいりますので、連携することは非常にたくさんあると思っ

ています。ですが、私ども1層のほうから2層の皆さんにこれをしてください、しなければいけませんという内容をするようなことではありません。

(白井委員)

分かりました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

またお気づきの点等出てくる方もあるかと思いますが、また最後のところで少し全体について質問の時間を持ちたいと思います。ご意見、ありがとうございました。

それでは、議事の2点目に移ってまいりたいと思います。議事の2、地域福祉活動計画に関する地区別計画の取組状況につきまして、事務局である東区社会福祉協議会、まず、担当の中村さんからご説明いただいた後、各推進委員会からという形になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

(社会福祉協議会)

私から少しだけ説明させていただきます。

皆さん、お手元に資料3と書かれたホッチキス止めの資料があるかと思いますが。昨年度は座談会という形で地域福祉活動計画の進捗状況を確認しておりましたが、今年度は、少し方法を変えまして、今参加している皆さん、12地区の推進員の方を中心に、各地区で地域福祉活動をしている方々への個別ヒアリングを実施させていただきました。その状況をまとめたものがこの資料3の横長の資料になっております。こちらは例年ですと、取組状況の報告については社会福祉協議会からすべての地区の報告をさせていただいていたところだったのですが、今回からは、12地区の推進員の皆様から、少し内容を読んで発表していただくことで、より地域福祉活動計画を自分たちの計画としてとらえていただける機会になればと思ひまして、皆様から発表していただければと思います。

(小池委員長)

それでは、各区の順番に、3分程度で説明をお願いしたいと思います。このホッチキス止め資料3の順番に従って発表していただければと思います。

最初に、山の下地区からお願いいたします。星野委員、お願いいたします。

(星野委員)

山の下地区の星野から発表させていただきます。地区別計画の意見や修正等、中のほうにずっと書いてありますが、これに伴って発表させていただきます。

地区のよいところということで、学校とのつながり。通学路の見守り活動にとどまらず、地域教育コーディネーターからの依頼で学校行事や校外学習などのお手伝いを行っているという

ことです。民生委員と山の下小学校、山の下中学校との情報交換会を開催しております。

特に今、私は民生委員をやらせていただいているのですが、民生委員のほうでLINE グループを作っております、学校から依頼がありますと、例えば、何々の行事があるので5人くらい応援をお願いしますということになりますと、すぐ1日くらいで応援する態勢が整っておりますので、学校行事等の依頼には本当に迅速に対応させていただいております。地域の子どもたちも、顔が見えますし、つながっていきますので、非常にこれはいい有効活動だなと思っております。

続きまして、地域の茶の間です。歩いていける居場所として茶の間が開催されている。地域住民の交流の場となっているということで、今現在、9か所くらいでお茶の間をやらせていただいております。私が住んでおります地域は、月に1回やらせていただいているのですが、常に民生委員も含めまして、町内会の役員の皆さん、それから町内会長とも、今月はこうしようかというような話し合いが行われまして、そこに集まってくるのが、大体20名から30名の間でしょうか、そこに定期的集まってくるお年寄りもいらっしゃるのですが、やはり、顔が見えるということで、民生委員は非常に役に立っております。そこに参加でいない方々にも、毎月、声をかけておまして、地域に班長がおりますので、班長にも声がけいただいて、新しい方が増えるような体制を整えております。あと、私どもの地域以外でも毎週やっているところもあるのです。大変だなと思っておりますけれども、2週間に1回というところもありますけれども、それぞれの地域を、皆さん、特色を生かして地域住民の方の交流の場になっていると思います。

次に、介護予防体操です。これは毎月開催を継続しておまして、体操は12か月中に10か月、フレイル予防を2か月、2月と8月に組んでおります。ここも参加者が25名から30名ほどありまして、主に健康づくりや安否確認にも役立っているということです。私が所属している地域福祉部で受付から運営をやらせていただいております。

それで、まちの変化です。新しい住宅地ができ、若い世代の住人が増えてきたということで、山の下地域は、皆様分かっていると思うのですが、商店街が非常に老朽化しております、なかなかそこに新しい方がお店を出すのは難しいものですから、非常に過疎化しているのですが、ドーナツ現象ということで、やはり、子どもたちが減ってきているという現状の中で、地域的に、ニッポー新潟株式会社などが少し老朽化されまして、あそこはやはり住宅地にしようかという案もありますし、少し使っていないところも住宅街になっておまして、少しずつ若い住宅地ができているということで、少しずつですが、子どもを含む若い世帯が少しずつ増えてきているかなというのが山の下の実情です。これをしませんと、隣の桃山校区コミュニティ協議会の小湊委員がいらっしゃるのですが、山の下小学校は1

クラスしかないのです。6学年で1クラスですから、6組ですよ。人数的にも30名弱ですから、1年生から6年生までみんな分かるということで、やはり、競争意欲がない。運営していくのも少し難しいかなというときにさしかかっております。そうすると、桃山小学校と合併になるのかなと言うご父兄の方々も少し心が揺れ動いている昨今ですので、少しずつ、山の下のほうでこういった若い世代の住民の方が増えていくというのは本当に嬉しい課題だと思っております。

次に、地区の課題です。情報共有。市役所のごみ出し支援事業など、情報共有が図られるようになってきて、回覧板で住民にお知らせする自治会、町内会もあるということで、ごみ出しボランティアの方が前は少なかったのですが、うちの町内でもごみ出しボランティアをするようになりまして3年経っておりますけれども、少しずつ皆さん、どの地域でも、こういったごみ出し支援をすることによって、要するに、助けられ上手というのですか、そういうところにもつながってきておりますので、自治会でもこういうことを進めていきたいと思っております。

続きまして、生活の課題～顔の見える関係づくり。自治会、町内会長や友愛訪問員でキャッチした困りごとを、包括支援センターへつなげていくことで安心できる。助けられ上手になるよう、啓発活動を進めているということで、各町内と友愛訪問員の方々と民生委員の方々が三者一体でこれも進めていきたいと思っております。

担い手の育成。活動者の高齢化が進んでいる。次世代の担い手の準備として、退職前の仕事をしている世代に地域にかかわってもらうよう声かけが必要。まずは手伝ってもらうところから関わってもらうということで、先ほどもこの課題が出ましたけれども、なかなか地域の町内会の役員の方々も高齢化していると言ったら大変申し訳ないのですが、若い世代の方々にお声かけを各町内ではしているのですが、なかなか担い手の方が、やはり、70代後半、80近くなくても頑張っていらっしゃる地域もあるようで、年齢から言ってもこの地域で頑張っている皆さんには感謝なのですが、次の世代にバトンタッチをしていくということが非常に難しい時代になっております。

それで、ここに書いてあるように、大体今、65歳が定年ですよ。しかし、頑張って働いていらっしゃる70代の方もいらっしゃるのですが、少し土日でお休みのときに、地域に少し手伝っていただけませんかとか、お茶の間で少しお声かけをして、高齢者の方でなかなか、歩いて行ける距離なのですが、車があると非常に便利ですというところにお手伝いしていただいたりとか、去年の暮れに、うちの地域では餅つき大会をやったのですが、コミュニティセンターでやったものですから、当然、少し歩いて行けない人たちのお手伝いを試みておりましたら、始めての方から参加していただきまして、その方々が今回、新年度の年度末です

が、4月から役員にもかかわっていただくことになりましたので、そういう意味では、少しいいのかと思っております。

実行計画に行きます。地域の問題解決のための会議を開催しようということで、民生委員児童委員と自治会、町内会長との情報交換と交流に向けた連携会議を毎年2回開催する。迷惑をかけてはいけないと思う人が多く、地域の中で助けてと言える関係づくりに向けて、自治会、町内会の中で日ごろから話し合っていく。広報紙を手にとってもらいやすいよう、写真を活用した読みやすい誌面づくりを継続する。

顔の見える関係づくりをしよう。まちづくりセンターのフリースペース、子どもの勉強やちょっとした打ち合わせに活用している。区役所や桃山地区との協働したイベント、山の下夜遊びランド、ハロウィンパーティーが好評だった。みなとランドの遊具が人気があり、イベント等でキッチンカーも来るなど、区外からも人が来る。若い世代の地域行事等の参加が増えたことから、今後もこのような取り組みを継続していく。

3、災害時、要支援者への対応や協力体制の整備をしよう。地域住民に避難所等の詳細情報などをきちんと分かってもらうよう、回覧板等で情報共有を図っていく。1月1日の地震のときに大山台に400人の人が集まった。仮設トイレやテントなどの整備に向けて、行政に働きかけをしたい。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。きっといろいろな活動があつて、ご報告、聞きたいところではありますが、3分程度でお願いできればと思います。

それでは、桃山校区からお願いいたします。

(小湊委員)

桃山校区の小湊です。

この資料に書いてあるとおりです。地区のよいところということで、私どもの地域は特に、あゆみ会という会がけっこう出てくるのですけれども、ある程度婦人を主とした、男の人もいるのですけれども、集まりで、いろいろなボランティアをそこでこなしていける組織である、実際にやっているということで、非常に助かって、いろいろな活動をしていただいております。コミュニティと一緒に3世代交流まつりといいますか、年に1回やっています、新型コロナウイルス感染症の関係でなかなかそれができなかったのですが、令和5年度にやりまして、大体300人くらいのご高齢者から子ども、それこそ幼稚園に入らないような子どもまで集まっていたいて、実際に盛況にやることができました。皆さん非常に喜んでおりました。そういう意味で言えば、いろいろな活動が活発にできる地域であると。それが地区のよいところですよ。

それから、課題としては、やはり、先ほど私が言ったように、今後どうするのというところ

を考えると、今はいいですよ。しかし、メンバーを見てみると、やはり5年後、10年後、本当にやっていけるのかということを考えると、やはり、担い手の育成というのは重要でしょうと。

それから、災害時の対応。特に今回、能登半島地震がありました。桃山地区はほとんどが海拔ゼロメートルです。揺れることに関しては何とか持ちこたえても、もし津波が来たら、昔の新潟地震のときも私はいましたので、あそこはまさに水の中ということになります。ではどうするのだというところで、今回のときは、藤見中学校が一番高いので、そこへ避難というケースが多かったのですが、残念ながら車で渋滞でにっちもさっちもという形になっております。それで、桃山小学校、山の下中学校があるのですが、4階、5階くらい行かないと、ひよっとしたら危ないかなという感じはあります。この辺をどうするかという課題があります。

それから、実行計画ですけれども、やはり、皆さんが顔を合わせられるような環境づくり、仕組み、常日ごろ、「隣は何をする人だ」ではなくて、こういう人が住んでいるよね、あそこは高齢者だけだよねというのが分かるようなことをみんなで把握しましょうよ。そういう中で、見守りも当然できるし、それから地域の茶の間も月1回やっています。けっこう集まってきて、楽しんで行かれます。ついこのあいだ、落語をやる人を呼んだのですけれども、大人気で、通常よりも集まる人が多かったと。これは非常に面白く話を聞かせていただきました。そういう意味で、できるだけ人が集まるようなイベントもしていきたいというのが実行計画になります。

(小池委員長)

ありがとうございました。

それでは、東山の下地区、お願いいたします。

(椎谷委員)

東山の下地区の椎谷と申します。よろしくお願いいたします。

取組状況は、1月29日に開催しまして、ご覧になっている文書で話が決まりました。

その中で、子どもの見守り隊ですけれども、高齢の方々なのですけれども、行き帰りの子どもたちの見守り等を一生懸命やっただいております。高齢者の見守りは東支会で友愛訪問を中心に、70名のボランティアの方々でやっただいております。

交流事業は、東山の下フェスティバルを4年ぶりに開催しまして、ボランティアで中学生、高校生たちも参加していただいて、1,000名くらいの参加者で実施できました。次年度、今年の6月の第1日曜日に開催される予定です。

三世代の運動会なのですけれども、これは30年以上前から開催しております。ただ、台風、新型コロナウイルス感染症等で6年間中止になっておりまして、指導者のほうで開催、続けられるのかというように戸惑っておりますけれども、今年も何とか実施しようという話にはなっ

ております。

地区の課題です。ボランティアの人数はいるのですけれども、リーダーとなる方の育成が課題ということで、短い時間の中でも参加できる人たちにどんどん参加できるようにして、若い力を取り入れたいと思っております。

実行計画ですけれども、コミュニティ協議会と自治会、町内会単位で仕組みをつくろう。ブロック会議。このブロック会議というのが、先ほどお話ししました運動会のほうで地域を四つに分けて、それで競っております。その団体をブロック会議という形で、いろいろな情報等を分け合って実施等、定期的に行っております。

移動支援としまして、タクシーデマンドを実施しております。令和5年8月から、会費を1,000円負担していただいております、会員150名の方々に利用していただいております。

こもれび交差点。週1回、茶の間として開催し、4年目となっております、新規参加者が徐々に増えております。男性の方も増えてきておまして、参加者の役割、お客さまにせず、いろいろと皆さんにご協力をいただき、参加者と運営者との形にとらわれないように運営に取り組んでいく。また、茶の間との交流も図っていきたく思っています。

子どもから大人までの顔の見えるまちづくりをしよう。子どもの見守り。交通安全推進協議会が中心となり、登下校の児童の見守り等を実施している。民生委員児童委員協議会やコミュニティ協議会と協働し、今後の子どもの防犯、安全に取り組んでいく。

各種イベントの開催。東山の下フェスティバル、三世代交流大運動会、東山の下支会歳末お楽しみ会の3点を実施する予定です。

学校との連携。地域教育コーディネーターとの実施により、学校の行事や総合学習への参加、小学生のこもれび交差点訪問、中学のボランティア部の交流等の機会を多く持てる。今後も継続して小学校、中学校との情報交換の機会を設け、コミュニティ協議会、民生委員児童委員協議会、支会等それぞれの学校との連携を深めていく。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、下山地区の渡辺(順)委員、お願いいたします。

(渡辺(順)委員)

地区のよいところ。各種交流事業。ふれあい祭り内容の検討をし、盆踊りを行い、この件なのですが、今まで、やはり新型コロナウイルス感染症で中止しておまして、令和5年度、今年度は行いました。子どもと踊りをしていただき、町内から来ていただきまして行いましたが、夕方でした。そのようなものを行って、令和6年度は完全に行います。

それから、地区の課題、情報共有。避難行動要支援は各町内で用紙を頂戴しておまして、

活動しております。高齢者等の要支援には各町内、うちの町内の班長にお渡ししております。

それから、実行計画なのですが、自治会、町内会と民生児童委員との連携を深めよう。これも今まで、ずっと町内会長と民生児童委員と1年に一度打ち合わせ会を行って行いましたが、やはり、新型コロナウイルス感染症で中止、中止、中止で、とても残念でした。自治会長とお話ができる、民生児童委員として説明をしていきたいと思っていたのですが、令和6年度から開始いたします。

支え合いのしくみづくり会議ですが、これは以前から立ち上げまして、ただ、内容的には庭の清掃とか草取り、そのようなものしかしていないのですが、最初のころはお電話を頂戴しまして、3名が担当しておりました。ただ、各町内からは、活動していただく方から名簿を80名くらい書いておきました。私は現場なのですが、電話が来ますと、その場所に行きまして、草取り、ここなんだなど、分かりましたと言って、お電話くださった方に少しお待ちくださいと言って連絡して、戻ってきて、担当者に頼んで作業しております。今現在もそうです。

②の顔の見える関係づくりを目指そうというのは、青パトなのです。青パトは、軽自動車あるところから借りまして、1か月に1回ほど回っております。小学生がとても喜んでくださりまして、必ず手を振ってくださるのです。そのような活動をしております。今後も青パトをやっていこうかなと思っております。

そんなところでしょうか。あとは書いたような、地域の茶の間も20の町内あるのですが、実は、16の町内しかしていないのです。そんなものはしていないという町内の方もいらっしゃるようで、ご自分の自治会館があるところとかなないところは借りてやっているのです。本当に高齢者は喜んでおります。いろいろな体操をしたり歌を歌ったり、そういう活動をしております。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、紫竹中央コミュニティ協議会の伊藤委員、お願いいたします。

(伊藤委員)

紫竹中央コミュニティ協議会の伊藤です。

限られた時間でもあります。皆さんお手元の資料のとおりです。特に、地区の目標、目指す姿、3項目について説明させていただきます。

まず、第1項目として、地区のよいところというよりも目指す姿として取り組みたい項目です。交流事業について。地域が開催する行事を通じて皆さんに触れ合う機会を多く作ることを目的として、自身のライフスタイルに合った行事を選択できるように進めております。事業の内容は記載のとおりです。一斉清掃や子ども餅つき大会などです。特に子ども餅つき大会が盛況で、子どもから大人まで触れ合う機会が作れました。幅広い世代の方と触れ合うことで、地

域に対する愛着を高めたいと思います。

続きまして、第2項目としまして、安心安全の取り組みについて。新潟地震発生から今年でちょうど60年になります。また、元日に発生した、北陸3県に多くの被害をもたらした能登半島地震、さらに最近、尋常でないのが、異常気象による自然災害です。災害は忘れる間もなくやってきます。コミュニティ協議会などで開催される合同避難訓練なども重要ですが、災害発生直後を想定した一時集合場所について、特化したいと思っております。災害が発生した場合、瞬時に家の外に飛び出すことが想定されます。このようなとき、周りや近所のようにすも気になります。お互いを気づかい、声かけ合いの場所として集まり利用する場所が一時集合場所です。近くの駐車場、空き地、公園、ビニールハウスなどの許可をいただいて利用しております。

最後、第3項目としまして、アパートマンション世帯との活性について申し上げます。自治会の維持、躍進のため、多世帯アパートマンション世帯に活動参加を促し、地域の特徴として、戸建て世帯が私どもは4割で、多世帯アパートマンション世帯が6割です。自治会に加入していても回避のみで活動に参加していただけない方へ加入を促したいと思っております。ご自身の可能な範囲で関心のある分野やライフスタイルに合わせて参加していただけるように環境を整えて、参加を進めたいと思っております。

以上で内容の説明については終わります。説明させていただきました。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、次に、木戸地区の星委員、お願いいたします。

(星委員)

これより、新潟市木戸地域コミュニティ協議会の説明をさせていただきます。

皆さんもご承知のとおり、我々木戸地域コミュニティ協議会は44町内、総勢で7,300世帯くらいの大世帯です。そこで、各役員で集まると言っても、44町内の会長たちと一堂にして会議をやるということはほとんど不可能です。その中で、やはり、組織的に、月に1回、役員会議をやっておりますけれども、皆さんのコミュニティもそうでしょうけれども、引き継ぎ、我々も高齢化になっておりますので、若い人間をどういう形で引っ張っていくか。また、担い手としてどんどん若い人との交流を深めながら、組織を円滑に、地域の皆さん方の安心と安心で暮らしやすい町内づくりを目指そうではないかということを考えております。

その中で、うちの地域で一番頑張って一生懸命やっているのが、政令指定都市になりましてから、その分、山木戸地区、木戸小学校地区、それから竹尾地区、山木戸連合会という三つの地域で、皆さん自主防災訓練を年に1回やっております。1回、そこの地域の訓練などは400

人くらいの参加者があります。

それで、いろいろな訓練を過去にずっとやってきましたけれども、ただ、一番問題点が、今回の能登半島地震であれだけの災害が起きました。しかし、新潟市も新潟地震で、今ほど隣の方もおっしゃっていましたが、約60年という歳月が流れて、皆さんの経験の中でも、子どものころに新潟地震を経験なさっていると思いますけれども、今の若い人たちは、言葉では分かっている、実際、そういう災害が起きた場合とかはほとんど経験がないので、言われたままの訓練事項をやっているだけで、実際の訓練というのはほとんど役に立ちませんでした。今回も、木戸地区もいろいろ今回の能登半島地震であれだけマスコミで3メートル以上の高波が来ますと言われれば、一般の市民の方は、あれだけ言われれば怖くなってみんな逃げます。それで、やはり、避難場所には、一番大きいところが木戸小学校で1,000人ほど来ました。

それで、1,000人も来られると、始末におえません。絵に描いた餅で、今までの訓練は何だったんだということで、では、そこで名簿を作ろうかと言っても、どんどん入ってくるのに名簿なんて作っている暇もない。やはり、高波ということで、1階の体育館などはほとんど入れられない。やはり3階、4階へ行く。そうすると、お年寄りが多い。登りにくい。そこで階段が混む。もうパニック状態でした。そのようなものが現状です。

今、我々役員で検討しているのが、実際、こういう高波とか津波が来た場合、どういう行動が一番ベストなのかということで、早急には決まらないけれども、新年度に入ったらその辺を一度見直して、みんなで冷静に考えてみようかと。行政に頼っていても仕方ありません。区役所へ電話しても、区役所も窓口が何人かいません。そうすると、あっちからこっちから電話が来ても対応のしようがありません。区役所の中の安心安全課の、私もよく知っている消防のOBの所長もいらっしゃいました。そうすると、その方に聞いてみても、非常に今、東区役所でも一時避難場所で開放したのですけれども、ここに来ている方々はそうたくさん来ていないのです。だから、地域で偏った避難訓練を今までやっていただけです。それも、あれは夕方、子どもたちもいない冬休みの時期でした。あれが昼間であって子どもたちが在校していたら、子どもたちもいる、逃げてくる方々もいらっしゃる、そうした場合、そのスパンがだんだん大きくなりますので、その辺をもう一度考え直そうかということ、今、みんなで必死になって考えているところです。

また、一つ、うちのコミュニティ協議会で言いたいのは、行政から言われることは何でもかんでも多いです。町内会長へこういうものをこうやってくれ、ああやってくれと。しかし、もう少し簡素化しようではないかと。そうでなかったら、町内会長なんてなり手がいない。やはり、だれかのために役立って町内の運営のためにというのは、楽しくなかったらやっていけません。

そのような形で、今、うちのコミュニティ協議会も大所帯の割にもっと素晴らしい組織ができるのだと思うけれども、やはりもう少し洗い直していこうということが今、原点でやっておりますので、今日の発表に関しては、大体こういう形の流れはやっておりますけれども、もっと素直に認めて、またいい方向に向かっていきたいと思っております。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、牡丹山地区の乙川委員、よろしくお願いします。

(乙川委員)

地区の良いところとして、住民同士の交流事業。寺山公園を中心とした多種多様な交流事業が充実し、多世代で賑わいがある。その他、コミュニティハウスの事業も実施しているということ。

地域の居場所です。地域の茶の間や健康体操、高齢者の居場所づくりに力を入れている。また、子育て交流施設や子ども食堂等の子どもから大人までの集える居場所を充実している。

医療と福祉団体との連携。医療生協や亀田郷芦沼会等、地元団体とのつながりが強い。日ごろの顔の見える関係性を構築しておくことで、事業実施時においても円滑に連携できている。

寺山公園は、防災公園としてかまどベンチや防災トイレが備わっている。災害に強い地域として、こいこいフェスタ等で広くPRしていきたい。

地区の課題です。アパートの居住者とのつながりが希薄化。自治会等の内容の意義を理解しているアパート世帯が少ない。掲示板やゴミステーション活用するなど工夫をし、自治会等の地域の活動を知らない住民に多く周知していく必要がある。

事業の参加者固定化です。地域の茶の間のフレイル予防教室は特定の参加者しか集まらない。参加者が少数であることも課題で、このフレイルは本当に少ないです。

実行計画。安心して暮らせるまちづくり。思いやり応援隊の継続。依頼募集だけでなく、活動の担い手を募集するため、広報物を全戸に配布。幅広い世代へ周知、ボランティア獲得に活動している。

地域住民、専門職で構成されたおたがいさままちづくり実行委員では、医療生協、亀田郷芦沼会と協働し、認知症捜索模擬訓練や学習会を開催することで、だれでも安心して暮らせるまちづくりに考える機会が増えている。

地域の茶の間・居場所を活用しましょうということです。令和6年、東区プラザ内3階に新たな学習イベントスペースができるため、子どもたちの新たな居場所として効果を期待している。

地域の茶の間、健康等、高齢者が生きがいをもって過ごせる居場所を、参加増に向けて取り

組んでいる。

令和5年度から始めた集いの体操、コミュニティハウス事業にも継続していく。

3番、地域の情報を共有しよう。自治会と民生委員児童委員は日ごろから地区ごとで情報交換、連携を図るが、全体の流れ、機会が減少。特に新任者が多いため、互いに情報の共有、顔合わせのための情報交換を検討していきたいということです。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、大形地区コミュニティ協議会の新田委員、お願いします。

(新田委員)

地区の目標としては、皆さん、本当に読んでいただくと、地区の目標と目指す姿は、だれもが安心して住むことができ、多世代交流の活発なまちにということで、本当に昨年度は活発に交流させていただきました。

それで、地区のいいところとして、住民同士の交流事業ですけれども、昨年、大形夏フェス in2023 を津島屋公園で開催させていただきました。参加者 600 名です。餅つき大会は大形中学校で餅つきをして、本当に多世代で赤ちゃんから、中学生中心ですけれども、地域の方に参加していただいて、200 名の参加ができました。

それと、学校とのつながりですが、私どもは1小1中です。それに県立大学があり特別支援学校が県立、市立と二つあります。これではお祭りや地域活動等にボランティアとして参加していただいております。今回は本当に多く、小学校、中学校のPTAの参加により大勢の方に参加していただきました。

今年度、地区の課題なのですが、ほかと同じでボランティアの高齢化とか担い手不足ですが、これを工夫しまして、今、大形サポーターズといってLINEで皆さんにボランティアを募集しております。今、一人二人から本当にみんな募集して人数が増えております。

それで、住民同士の関係性の希薄化ですけれども、私どもの自治会は3分の1が1年で自治会長が交代するために、やはり、顔が分からなかったり顔合わせの会に出席しない地区があったりとか、こういうものもやはり問題、これからの課題なのではないかと思っております。今年度、コミュニティ協議会から全自治会の会長に世帯表を作っていたいただきたいという願いをして、任意ではありますがけれども、個人情報等もありますけれども、これを本当に世帯表によって、やはり、だれかが倒れた、高齢者が倒れたときに連絡がつかないということにならないように、これを皆さんにお願いしているところです。

実行計画につきましては、やはり、地域のつながり、顔の見える関係づくりを推進しております。これは本当にサークルがボランティアに活動するなど、つながりが本当に出てきてきて

おります。それと、昨年、大形小学校で出前講座を行いました。自治会の90歳の方から戦争の話の聞いたり、本当に子どもたちに戦争の恐ろしさとかそういう講座をどんどんしていきたいと思っております。

安心で安全なまちづくりを進めるということで、やはり、大形小学校、大形中学校のところで全体であいさつ運動の声掛け運動をしております。それで、より実践的な避難所ごとの防災訓練を計画しております。

3番、支え合いのしくみづくりですが、本当に3年ぶりですけれども、今年の1月27日に民生委員、自治会長向けの支え合いのしくみづくりの勉強会を開催し、約60名が参加しております。今後も定期的にこのような取り組みができるといいかなと思います。

それで、茶の間は、現在、25自治区8自治会で開催しております。順調に運営しております。参加者が固定化して新しい参加者が増えない点が課題ですが、これは一声かけて、一声運動としてしていきたいと思っております。

あと、柳ヶ丘自治会がありますけれども、これは生活支援、買い物難民が出ないようにして、タクシーというか、自治会で車を出し合って買い物に行ったりしておりますので、こういう取り組みを地道にこれからも頑張っていきたいと思っております。

(小池委員長)

ありがとうございました。

それでは、次に、江南小学校区コミュニティ協議会の新保委員、お願いします。

(新保委員)

雑誌の52ページを見ていただくと分かるのですが、実は、江南は紫竹と石山の田んぼだったわけです。だから、8割が区画整理事業によって誕生した6メートルの道路で、行き止まりがありません。したがって、6メートルですから、けっこう車が止まっても通れるという便利さがあります。ただ、けっこう大型のアパートが、農家の人たちが区画整理事業に参画しないでアパート、高層住宅がありまして、そういったところが普通の住民と接触がない。特に、60歳までにローンを終わりたいということで、けっこう共稼ぎが多いのです。そのようなことで、地域との結びつきがないのが難点です。

それで、最後のページが江南ですが、実は、江南小学校で10月に紙ヒコーキ選手権、これが好評で、親子で参加してその場で教えてもらって作るわけです。用紙を用意して。そうすると、子どものほうが高く飛んで時間も長く飛ぶということで、帰るときには、お父さん、ぼくのほうが勝ったよなんて、そんな和気あいあいとして帰っていく姿が非常に印象的でした。

それで、今問題になっているのは、石山公民館が老朽化して、取り壊しという話も出ているのですが、3階に給食室があって、夏休みに親子で給食を作ったり、そういう活動をしており

ます。特に今、お助け隊というものを作って、支え合いのしくみの中で、助けてほしい人、助ける人を登録していただいて、家の中には入らないと。ごみ出し、除雪、それから庭木の手入れ、上に上がって本職みたいなことは怪我をすると困りますので、そういう形で今、やっております。そのようなことで、今、お助け隊が非常に好評になっております。

そのようなことで、これからも地域としても積極的に交流を図る事業を展開していきたいと思っております。それで、最初の第一歩ということで、体操、それから歩くということを一覧表を作って渡して、達成した人には記念品をやると。特に、外で行動してもらおうということを福祉部で考えて取り組んでいるところです。健康第一が目的です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

すみません、私が冊子の順番でご紹介してしまったので、先に江南小学校のほうに行きましたが、資料を戻っていただきまして、資料の順で行きますと、次に、南中野山です。南中野山小学校区コミュニティ協議会の渡辺（孝）委員、お願いします。

(渡辺（孝）委員)

うちのコミュニティの中心的な方針といたしますか、目指す姿は、右側に書いてあります、ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるように。これが最終目的といたしますか、こうなるような社会を作ろうということで、具体的には、地区のよいところという、最初に書いてあります、ヘルプ南中野山という組織がありますけれども、これは今ほど言いました、ちょっとした困りごとをすぐに助けられるといたしますか、そういう組織でありまして、ちょっとした困りごとというのは、些細なことでは、重い物が玄関にあるからそれを少し移動してくれとか、それから、電球が切れたから交換してくれとか、何と言いますか、健康な若い人であればそんなことに困っているのかと分からないようなちょっとした困りごとを助けようという組織であります。

それで、協力員と助けてもらいたいほうの人それぞれ、今、少し人数は出てこないのですけれども、両方とも約50人くらいだと思います。それがコーディネーターに連絡を入れることによってすぐに駆けつけるということでもあります。うちのコミュニティ協議会の中心的な福祉事業はこれを中心として動いているわけですけれども、それでもその次にありますように課題がありまして、結局、困っているのだけれども、どこに言ったらいいいのか、どこに連絡すればいいのか、あるいはこのようなことは我慢しなければだめなのだろうかというご高齢の方がいらっしやいまして、そういう人に遠慮なく申し入れてもらおうといたしますか、知らせてもらおうことが課題、要するに、吸い上げということですよ。

それから、ヘルプ南中野山でこれからやっていかなければならないものが三つほどあるので

すけれども、一つは、家庭の中に入るお助けをできるようにと言う、これは家の中に入ることによっていろいろな制約がありますけれども、それをもう少し広げていけるように。それから、病院とか買い物ということで、移動に伴う、それは具体的に言うと車が必要なのですけれども、車が必要などということのお助けといいますか困りごとを何とかしたいと。それは何回も支え合いのしくみづくり委員会で議題にはなっているのですけれども、具体的には、だれが運転手になってどういう形でやるかというのが、今、検討中ということです。

それから、3番目としましては、実行計画の②、認知症の方2に対するサポートをどうするかということで、これは支え合いの仕組みづくりあるいはヘルプ南中野山ということだけでは少し荷が重すぎるので、コミュニティ協議会全体として扱って、将来的には認知症カフェみたいな、そういう人たちが集えるような場所を作ればいいなということが言われております。

もう少しで終わりますけれども、顔の見えるところというのは、こういう福祉事業というのは民生委員と自治会長の連絡が密でないとなかなかうまくいかないということで、自治会の中で自治会の民生委員とは顔を知っていて、もちろん連絡し合えるのですけれども、ほかの自治会の民生委員はだれなのだろうかということがよく話題になります。うちは13自治会あるのですけれども、ほかの自治会の民生委員との顔合わせが毎年大事な課題になっております。新型コロナウイルス感染症で中断しましたけれども、去年からまた全体の会議、全自治会長とそれぞれの自治会の民生委員が一堂に集って意見を交換するという場を作っております、これからはそれが大事だと思います。

最後にもう少し言いたいのですが、1月1日の能登半島地震ですけれども、やはり、避難所というところで決めてあると、例えば、南中野山小学校なのですけれども、そこに何百人が行ったということなのですけれども、鍵が閉まっていて開かなかったという問題がありました。詳しい者、要するに、避難とかそういうものに詳しい、コミュニティ協議会の中でも詳しい人がおりますけれども、その人は、ハザードマップを見れば避難すべきかどうか、津波のときに避難すべきかどうかはすぐに判断できるはずだという言い方をするので、ラジオ、テレビで逃げて逃げてと言われると、逃げる人がけっこう多かったということで、では、どのように周知といいますか、避難すべきときです、避難しなくていいですという連絡をするというのはこれからの課題だと思います。

以上です。長くなりまして、どうもすみませんでした。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、次に、東中野山小学校区コミュニティ協議会の野村委員、お願いいたします。

(野村委員)

東中野山地区は、いいところはここに書いてあるとおりです。

簡単に言うと、地域の茶の間がうまくいっております。毎回予定どおり開催しているところ  
です。それから、自治会長と民生委員の情報交換は、数年前に決めて、毎年やっております。  
やはり、顔が見える状態だと、仕事をするについてもいいかなと思っております。それから、  
支え合い応援隊はきちんとやっておりますが、子どもと高齢者のふれあいが少ないものだから、  
子どもと高齢者のふれあい食事会、これは協議会からの助成金で毎年やっております。

次に、地区の課題ですが、書かれたとおりであります。買い物、抱える方が出てきているが、  
住民同士の支え合いで移動のことについては私たちはやっております。要するに、白タクに  
なるということから、やらないということで決めております。それから、担い手の育成という  
ことで考えていますが、それはやはり、若い人たちを行事に参加させて、中心的に動いてもら  
うことによって、私たちのほうが見ていると。一緒に参加するけれども見ていて若い人に任せ  
るといふことになると、若い人が本当に熱心になって指示したり何かしてしまして、やはり、  
私たちのほうに寄り添ってくるという状況です。

それから、防災の関係ですが、私たちは今まで訓練してきておりますが、今回の能登半島地  
震で、ここにも書いてありますが、車いすを使用している方の階段昇降について、大変手数が  
かかったということですが、これは私たちのほうでは消防団がありますので、消防団の連中か  
ら応援をいただきましたらスムーズに行きました。

あと、自治会長が1年交替ということがありますがけれども、それは何にしても結果が出ない  
ということで、今、4自治会が1年交替なのですけれども、今年から、説得しまして、二つの  
自治会に減りました。だから、二つの自治会はまだ1年にしているということがありますがけれ  
ども、それについてももう少し説得していきたいと思っております。

それから、次世代を巻き込むには、先ほどお話ししたように、参加者をとにかく若返らせて、  
私たちの一緒にいるけれども、参加者に対して主導権をやって、若い人になるわけですけれど  
も、主導権をやればけっこう吉とうまくやっていただけるということで、自信が出てきました。

ありがとうございました。以上です。

(小池委員長)

ありがとうございました。

それでは、中野山小学校区コミュニティ協議会の白井委員、お願いいたします。

(白井委員)

中野山地区のいいところとしては、そこに書いてありますように、コミュニティ協議会と小  
中学校の連携ができており、多世代の集まり、地域活動を行う機会が多いと。あと、防災意識  
が高く、年1回の合同防災訓練を定期的に行っています。あと、介護予防のフレイル予防の取

組みを去年くらいからですか、年2回くらいやっております。

あと、地区の課題としては、世代間の交流の機会や介護予防の取組みなどを行っているのですが、やはり、参加者が同じ方が来ていらっしやって、新規に来ていただく方が少ないということで、その辺を今後、どう考えるかということが課題です。

あと、地域の茶の間もやっているのですが、コロナ禍以降、大勢で集まるのがいやだという方がけっこう増えているということです。

あと、ここに記載がなかったのですが、私も発表したかどうかは忘れたのですが、コミュニティ協議会と自治会、地域包括支援センター、支会とかそういうものが一体化できるといいのですが、やはり、ばらばらの活動をしているので、その辺が今後、課題ではないかと思っています。

あと、実行計画はそこに書いてあるとおり、顔の見える関係づくりの推進ということで、石山中学校区全体のあいさつ運動をずっと続けていますので、これを今後も続けていきたいと思えます。あと、地域の花植えなど、大人と子どもが触れ合えるような機会を増やしていきたいと。

あと、コミュニティ協議会とPTAの連携により輪投げ大会やいきいき広場といった、子育て世代にも参加できるような事業を今後も行っていきたいと思えます。

あと、非常時にも対応できる仕組みづくりということで、今年度発行できると思えますけれども、若い方はスマホなどで情報が取りやすいのですが、高齢者の方がなかなか情報が取れないということで、お助けガイドブックという冊子を作りまして、高齢者世帯全体に配りまして、高齢者がいざというときにどういった情報があるのかというのは、そのガイドブックを見ることによって情報を得て、電話をしたり行ったりということができるようなガイドブックを中野山小学校区で作ってきたいということです。

あとは、引き続き年1回の防災訓練はやります。その下に能登半島のことが書いてあるのですが、これは参考までに、ペット連れの方をどうするか車いすの方を、例えば、津波だと1階に置くわけにはいかないもので、2階、3階に上げるにはどうしたらいいとか、いろいろな課題がありますということです。

あと、3番目が、気軽にだれもが集える居場所づくりを推進ということで、これはずっと引き続きやっているのですが、地域の茶の間で、フリースペース中野山という、多世代、小学校を対象にした事業と、あと、高齢者を対象にした健康長寿中野山という事業の二つで去年からやっています。高齢者向けに関しては、新潟市のしゃっきり体操を毎回やって、好評を得ています。

4番目に関しては、美しい環境づくりを推進ということで、これは毎年やっているのですけ

れども、石山中学校の生徒と小学校の5年生、6年生が一緒になって、地域の清掃活動を毎年やっています。

(小池委員長)

ありがとうございました。

各地区の取組状況についてのご報告、ありがとうございました。今、地区ごとにそれぞれ発表していただきましたので、少し時間が限られてはいるのですが、せっかく今日、ここにご出席いただいておりますので、大澤委員から順番に、一言ずつ、1分から2分くらい、感想とお気づきの点でかまいませんので、順番にご発言いただけるとありがたいです。

では、大澤委員からお願いいたします。

(大澤委員)

今、12地区ですか、聞かせてもらったのだけれども、ほとんど皆さん一緒かなと思いました。そして、こちらに出てきていらっしゃる方とかこういう行事に参加していらっしゃる方は、やはり、防災とかそういう近所と仲良くしていかなければだめだとかいう意識が高い方だと思うのです。問題は、そういうものに全く興味がない人が問題なのかなと私は思っています。

そして、民生委員という言葉が非常に多く出てくるのですけれども、困ったときの民生委員というのですか、私も民生委員をやっていますけれども、本当に何でもかんでも民生委員のところに来るわけで、毎日1回は出かけていないとやっていけないくらい、仕事がたくさんあるのです。

それで、このあいだの1月1日の地震のときに、避難行動要支援者名簿に出しているのに私のところには何も連絡が来なくて、どうしていいか分からなかったというお叱りを受けたわけなのですけれども、そういう方もいらっしゃるって、何かあったときは民生委員が助けてくれるのではないかとか、そのように思っている方もいらっしゃるようです。皆さんの今の発表を聞いていて、要するに、そういう方々のつながりとか意識を高めるのが私はとても大事なことなのかなと思いました。それには何がいいのかなとずっと思っていたのですけれども、やはり、近所づきあいをよくするとか、近所仲よくしていくということが一番大事なことなのかなと思って、地域の茶の間などもいいのかなと思って聞いていました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、遠山委員、お願いいたします。

(遠山委員)

皆さん、コミュニティ協議会の方々からいろいろご意見をいただきました。参加活動のお話をいただきました。ありがとうございました。皆さんのものを見せてもらおうと、共通するとこ

ろは、やはり、担い手不足ということ。先ほど小湊委員からもお話しがあったとおり、そこが本当に皆さんの大きな課題として一つあげているところが多いなということは感じました。

その中で、まず、新潟市と社会福祉協議会から最初にお話があったのですけれども、この冊子の中でボランティアの担い手ということだと、探してみたら、18ページのところで、社会福祉協議会であったり区役所であったりがしている活動は書いてあったので、取組みとしてはこういうところでやっているかなとは思ったのですけれども、取組みを見せてもらうと、毎年何となく同じものになっているのかなと感じました。本当に勝手ながらの意見で申し訳ないのですけれども、もしであれば、皆さんでこの課題を東区ならではの取組みとして何かできるととてもいいのかなと感じました。

あともう一つ、本当にコミュニティ協議会の皆様から、何かあれば地域包括支援センターに相談するというところでご報告いただきました。ありがとうございます。私たちも地域の皆さんにもっと知ってもらうために、もう少し頑張って啓発活動をしていかなければいけないかなと思いました。

(小池委員長)

ありがとうございました。

次に、桑野委員、お願いいたします。

(桑野委員)

今日は初めて参加させていただきまして、何か場違いな感じなのですけれども、本当に私は老人クラブだけしかかわらせていただいているので、こんなにたくさんの地域の皆さんがこのように大変な思いをされて地域を守ってくださっているのだなということで、大変ショックを受けました。

事前に東区地域ふれあいプランを読んできるといって、見せていただいたのですけれども、ちんぷんかんぷんで、組織も分かりませんし、何が何だか分からなかったのですけれども、今日、皆さんのお話を聞いて、何か少しは自分も何らかの形で力になればいいかなということを強く感じました。

それと、私も町内、近所の方々が高齢化してしまっていて、今お話しがあったいろいろな問題が現実には起きているのです。それを人ごとというか、そのような感じで過ごしていたのですけれども、先ほどもお話がありましたけれども、向こう三軒両隣、基本はそこの人たちがお互いに気持ちを交流させて、どちらかという私もかわってもらいたくないとか、かわりたくないとか、そういう感じの気持ちもあるのですけれども、今日からそれを払拭しまして、本当に昔の人間関係、今は違うなんて言っていないで、それをまた基本として進めていくことが一番大事なことはないかということを確認させていただきました。

長くなってすみません。ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

それでは、樋口委員、お願いいたします。

(樋口委員)

皆さん、どこのコミュニティ協議会も苦勞されているなということは感じました。ご苦勞さまでです。私も民生委員をやっているのですが、民生委員は3年が1期で75歳が定年という縛りがありまして、来年がまた改選期になります。定年があるものですから、また苦勞するというのがあるのです。町内会長などは定年がないのでいつまでもやれるというのがありますけれども、なかなか民生委員のなり手がなくて、来年は少し苦勞しなければならないという問題があります。

そのようなこともあって、町内会とも情報共有して仲よくしていかなければならないなど常々思っております。また何かあれば、私も地域包括支援センターにはいつも、うちの民生委員児童委員協議会は27名降りますが、常にお世話になっております。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございました。

では、青木委員、お願いいたします。

(青木委員)

ありがとうございました。私は地域ということではなく、最初に、今日は時間がないので、またチャンスがあったらお聞かせ願いたいと思った項目がありました。それは、健康福祉課の主な事業案の継続の中の、子育て応援事業という中で、最後の虐待防止を目的としたワークショップ実施という中で、8区の中で東区が比較的虐待防止の数値が多いという説明がありまして、そこが非常に私は今日の会議で気になる場所でした。今日はもう時間がありませんけれども、現状どうなのか、また、このワークショップを実施することでどのようにそれを少しでも減らしていけるのかというような点を、また機会がありましたら、ぜひ、教えていただきたいとおっております。今日はありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。

では、井上委員、お願いいたします。

(井上委員)

各コミュニティ協議会のお話を聞いていまして、特に防災です。うちの町内でもいろいろ検討して、75歳以上の方をだれがどうという机上での検討はしているのですが、紫竹中央

コミュニティ協議会のようにマップに下ろして具体的なこと、それから階段を、車椅子の人をどうするかというような話とかいろいろありまして、また、うちの町内でも再検討かなという感じがいたしました。

それで、私的には、ラジオ体操を4月から10月までやっております、ほかの町内からも大体、通常30名から40名、夏休みですと60名から70名の方が参加してやっております。ラジオ体操、体の筋肉は大体600くらいあって、その内の450くらいの筋肉を使うという素晴らしい体操です。それとまた体操が終わった後に皆さんで声をかけあって、お互いのことを話し合っていて別れております。

もう一つ、森林浴を会う人ごとにお話ししています。ストレスもなくなるし、免疫機能もよくなるし、木を見て元気になって、以前はコロナ禍だったので新型コロナウイルス感染症に負けないようにという事を皆さんでお話しして進めてきました。

(小池委員長)

ありがとうございました。

各区からと、それぞれ事業の関係機関の皆様から一言ずつもらいました。少し時間が押しておりますけれども、全体の中でご質問、ご意見等ありませんか。

ありがとうございます。私も皆さんの活動報告を聞かせていただきながら、やはり、顔が見える関係が一つキーワードとして出てくるのだろうなと思いながら聞かせていただいております。コロナ禍でなかなかそれが途絶えてしまったこともあるでしょうし、もう一つ、社会全体、地域全体が高齢化する中で、お互いにかなり意識的に動かないと、顔が見えるというところに、皆さん、高齢の方々も出て行きにくいですし、地域の方々も高齢化している中でそこを作っていくことが難しくなっているのかなと思ひながら、聞かせていただいております。顔が見える環境をつくるために、皆様、地域の中でいろいろな工夫をされているということ。その中で、いろいろ参考になるとか、こういう工夫をされているのだなというのも思ひながら聞かせていただいておりますので、ぜひ、今日、作っていただきました資料を見ながら、横展開というのでしょうか、それぞれのコミュニティとかで、私たちもこれは生かせるかもというものがありましたら、積極的にお互いに活用しあいながらという形が進んでいくといいなと思ひながら聞かせていただいております。ありがとうございました。

すみません、進行がまずくて、少し押しておりますので、また皆様からご意見等ありましたら、事務局にお伝えいただければと思います。

それでは、予定しておりました2点の議事が終わりましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。皆様、ありがとうございました。

(司 会)

小池委員長、どうもありがとうございました。また、各地域代表の皆様より各地域の取組みや特徴を丁寧にご報告いただきまして、誠にありがとうございました。

続きまして、次第3、事務連絡です。

(事務局)

皆様、本日はお忙しい中お越しいただき、ありがとうございました。事務連絡になります。

まず、本日の謝礼につきましては、4月の中旬ごろにご指定の口座にお振り込み予定としておりますので、ご確認のほどお願いいたします。

また、令和6年度第1回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会につきましては、令和6年7月ごろを予定しております。また時期が来ましたら皆様にご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

(司 会)

以上をもちまして、令和5年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を閉会といたします。

本日は、お忙しいところ熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。